

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
北海道芸術デザイン専門学校		昭和51年4月1日		根上 和也		〒001-0024 (住所)北海道札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話)011-756-0777		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人 美専学園		昭和62年12月4日		増田 涼平		〒001-0024 (住所)北海道札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話)011-756-0777		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
文化教養	専門課程		環境デザイン学科(インテリアデザイン・コーディネーション専攻)		平成7年文部科学省告示第7号	-	平成26年3月31日	
学科の目的	環境デザイン学科(インテリアデザイン・コーディネーション専攻)の各分野に関するプロ養成に必要な、「基礎から実践」までを教育することを目的とし、次の事項に重点的に取り組む。 ・各分野のプロになるための技術や知識を学ばせ就職させる。 ・国家資格を中心に各種の資格取得を推進し、社会の発展に寄与する実践的な能力・態度を育てる。 ・いかに学生・保護者・就職先企業等のニーズに応えるか、各分野における諸課題を主体的・創造的に研修し実務的な職業教育を施す。							
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)	【資格・検定】 二級建築士受験資格 インテリアプランナー、インテリアコーディネーター、二級建築施工管理技士、福祉住環境コーディネーター、建築CAD検定、ADEC色彩士検定 【学修成果】サンゲツデザインアワード2024 ファイナリスト賞							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いづれかに記入		2,400 単位時間	480 単位時間	1,920 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
				-	-	-	-	-
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
100 人以内	39 人		0 人		0 %	6 %		
就職等の状況	■卒業者数 (C) : 15 人							
	■就職希望者数 (D) 14 人							
	■就職者数 (E) : 14 人							
	■地元就職者数 (F) 13 人							
	■就職率 (E/D) 100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E) 93 %							
	■卒業者に占める就職者の割合 (E/C) 93 %							
	■進学者数 0 人							
	■その他							
	就職先自己開拓 1名 (令和 6 年度卒業者に関する令和7年 5 月 1 日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 建築設計事務所、建設業、工務店、住宅メーカー 等								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無							
当該学科のホームページURL	https://bisen-g.ac.jp/course/environment/interior/							
企業等と連携した実習等の実施状況	(A : 単位時間による算定)							
	総授業時数				2,400 単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				240 単位時間			
	うち必修授業時数				2,400 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				240 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間			
	(B : 単位数による算定)							
	総授業時数				-			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				-			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				-			
	うち必修授業時数				-			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				-			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				-			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				-			
教員の属性 (専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				0 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				0 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				1 人			
	計				1 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員 (分野におけるおおむね 5 年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定) の数				1 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」を達成するために、指導内容や各種特別活動等を総合的に組織する一連のPDCAサイクルにおいて、教育課程編成委員会でその教育効果を検証し、企業等委員からの意見・助言を取り入れ、開設科目編成や授業内容の改善等を図っていくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

年2回開催される本委員会は、委嘱委員から経営者等としての視点による助言を受け、即戦力となる人材育成のために、学生がインターンシップや職場体験、現場見学等を経験できる機会を創出する等、社会人としての基礎力および実務スキル向上につながる授業内容や指導方法の改善に取り組むための、意見交換および教育効果検証の場として位置付ける。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
佐野 公康	株式会社プリプレス・センター 顧問	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
佐藤 正人	北海道イラストレーターズクラブ α 名誉会長	同上	①
堀川 敦史	(株)インフィニットループ 執行役員	同上	③
大内 利章	(株)自然農園 代表取締役社長	同上	③
伊藤 千織	一般社団法人 北海道デザイン協議会 会長	同上	①
薄木 健友	(株)花佳 代表取締役	同上	③
赤坂 真一郎	(株)アカサカシンイチロウアトリエ 代表取締役	同上	③
鈴木 理	(株)鈴木理アトリエー級建築士事務所 代表取締役	同上	③
根上 和也	北海道芸術デザイン専門学校 校長(委員長)	同上	—
高橋 美絵	同 教務部長・マルチメディアデザイン学科長	同上	—
飯塚 哉子	同 学務部長・建築デザイン学科長	同上	—
高畑 文一	同 産業デザイン学科長	同上	—
桂 充子	同 環境デザイン学科長	同上	—
稲葉 未紗	就職課主任	同上	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催頻度:年2回、開催時期:8月および2月

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月29日 16:00～18:00

第2回 令和7年2月10日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・第1回教育課程編成委員会で出された意見や助言を踏まえ、改善点があれば、可能なものは後期の授業から、その他については次年度の教育課程編成に際して反映させ、第2回教育課程編成委員会で新年度教育課程案として提案している。

・学生が課題に生成AIを利用した場合、成果物に騙される可能性が出てきたので、その途中のプロセスをしっかり把握することがとても大切になってくる。教員側も生成AIについての正しい知識を得る研修会などが必要。との意見を踏まえ、学内教職員を対象とした「生成AIに関する研修会」を開催。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」達成のため、各専攻関連分野の企業および業界団体と連携し、実践的な職業教育の実施に必要なカリキュラムの作成、講義および研修の実施、各種教材の作成等において、緊密な協力体制を構築・維持するものとする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

・職業教育協定書に基づき、各専攻関連分野の企業および業界団体から、各専門分野の指導講師として人材の派遣を受ける。

・担当教科目の指導計画について事前に協議し、各教科目のねらいに沿って授業内容や実施方法、評価の観点等についてまとめた指導計画書(シラバス)を作成し、教務部へ提出する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
インテリアデザイン応用演習	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	実際のインテリア工事ではクライアントの要望、予算など様々な制約がある。条件を踏まえつつ、より実践的なインテリアの提案を行う。スケール感、素材感を学びつつ、要望に対する自分らしい回答を考える。	Aterlie Monogoto 一級建築士事務所
CAD演習Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	CADソフトを利用した図面作成から3Dモデリング表現までを学び、PC上でのレイアウトやプレゼンテーションスキルを習得する。テクスチャーにこだわったCG技術を身につけ、また同時に発想力・表現力・色彩感覚の向上を目指す。	株式会社 アトリエ樹
インテリアエレメント	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	建築内部空間の「しつらえ」に関する部分について日常生活における具体例、実物を見ながら授業展開を行う	日々暮色舎
商業施設デザイン演習Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	カフェレストランの計画・設計をモデルにして、市場、コンセプト、プランニング、設計を学ぶ。人体動作と基礎空間(動線計画と平面レイアウト・展開寸法)の把握。各部の機能を理解し、店舗全体のデザイン設計を行う。	engawa.
住空間計画	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	人間工学を基にしたインテリア計画の初歩的学習へ結びつける。基本設計では、設計条件分析、発想方法、さらにそれらを具体化させ、ラフプランニングを図面化して設計の流れを学び、インテリアデザインを具体的な形に発展させ、環境工学にも配慮した快適な住まいを提案する。	株式会社グリーンライトアソシエイツ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

(教員の研修等の基本方針)

本校教職員研修規程に基づき、研修は、教職員が現在就いている職に係わる職務の遂行に必要な知識、技能、資質等の向上を図ることを目的とし、そのため教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校内外で催される必要な研修を受ける機会を学園として認め、経費を負担することとする。

- ・教職員は、業務に支障のない限り、理事長の承認を受け校外の産業現場等、勤務場所を離れて研修を行うことができるものとする。
- ・各専攻関連分野の業界団体主催による各種技能研修や、ICT機器・アプリケーションソフト関連セミナー等の受講機会を確保し、最新の実務知識・技術・技能の計画的修得および向上に努める。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:『インテリアデザイン×プロダクトの産む世界』

期間:令和7年6月26日(木)

内容:株式会社 COHAKU 代表取締役 濱西 邦和によるインテリアデザインとプロダクトデザインの可能性についての講演

連携企業等:㈱ダイナワン

対象:建築・インテリア関係者

研修名:『ホテル×レストランデザインから見える国内のラグジュアリースタイル』

期間:令和7年6月27日(金)

内容:株式会社ドイルコレクション 代表取締役 井上 愛之による国内外のラグジュアリースタイルインテリアについての講演

連携企業等:㈱ダイナワン

対象:建築・インテリア関係者

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:『New Education Expo 2025』

人口減少社会における地域課題解決型探究学習について

期間:令和7年6月6日(金)

内容:現場での取り組みに基づいた事例をもとに、教育の効果的な進め方、教員の関わり方、地域社会との連携の在り方、さらには教員養成や研修への取り入れ方等について学ぶ

連携企業等:㈱内田洋行

対象:学校・教育関係者

研修名:「最新のデータから見る大学・短大・専門学校生の傾向」

期間:令和7年7月14日(月)

内容:教育目標の達成に向けた効果的な指導事例

連携企業等:㈱進研アド

対象:専門学校教務・広報

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:令和7年度 北海道私立専修学校各種学校連合会工業部会教職員研修会

期間:令和7年8月4日

内容:～教育制度として専門学校の意義、そこで何を学ぶのか～
『教育は未来を変え、テクノロジーは未来を創る』

連携企業等:北海道私立専修学校

各種学校連合会工業部会

対象:(公社)北海道私立専修学校

各種学校連合会会員校教職員

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「令和7年度第1回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会」

期間:令和7年8月1日

内容:変化する高校生の理解と専門学校教育の展開
～社会人基礎力の育成を目指して～

連携企業等:北海道私立専修学校

各種学校教員能力認定委員会

対象:(公社)北海道私立専修学校

各種学校連合会会員校教職員

研修名:「令和7年度第2回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会」

期間:令和7年12月18日

内容:新しい学びの場 ～「新たな教育のスタイル」の確立に向けて～

連携企業等:北海道私立専修学校

各種学校教員能力認定委員会

対象:(公社)北海道私立専修学校

各種学校連合会会員校教職員

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価と学校関係者評価を実施することで、学校の現状と課題を的確かつ具体的に把握して学校運営の改善、強化を目指すものである。また、同時に関係する企業等との信頼関係を深めることを基本方針としている。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標・人材育成像	理念・目的・育成人材像など学科の特性が明確になっているか 各学科の教育目標・育成人材像は業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	目標等に沿った学科運営方針が明確になっているか 教育活動に関する情報公開が適切になされているか
(3) 教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が示されているか 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか 資格取得の指導体制はカリキュラムの中で体系的に位置づけられているか 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる指導体制を確保しているか
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか 退学率の低減が図られているか
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか
(6) 教育環境	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか 防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は適正に行われているか 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
(8) 財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 財務について会計監査が適正に行われているか
(9) 法令等の遵守	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
(11) 国際交流	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

昨年度は4名中3名の委員を、今年度は残る1名を入れ替え、新たな視点・それぞれの立ち位置から、本校が行った学校評価(自己評価)結果及び今後の改善に向けての方策等について意見をいただいた。今後も、歴史と伝統のある道内有数の専門学校として、不易と流行を踏まえながら、時代や業界が求める人材の育成のため教育課程や学生指導について改善を図り、また職業実践専門課程校としての責務を果たすべく、連携する企業との情報共有の充実や教育資源の積極的な活用に努めていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
孫田 敏	(有)アークス 代表取締役	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	企業関係者
松田 香織	宮の沢明日佳病院 看護部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	企業関係者
篠宮 利恵子	デザイナー	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	地域有識者
金井 正治	陶芸工房 アトリエ陶 代表取締役	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	卒業生・企業関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校) <https://www.iyaku.ac.jp> (北海道医薬専門学校)

公表時期: 令和7年6月中旬

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の状況(課題や教育活動の取組)を広く理解してもらい、さらに企業等との信頼関係を深める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	経営方針、学校の特色、新型コロナウイルス感染症対策
(2)各学科等の教育	カリキュラム、収容定員、学修成果、資格取得等の実績、卒業生の進路
(3)教職員	各教員の担当科目、教員の専門に関する情報
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取組状況、実習等の取組情報
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況
(6)学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い、活用できる経済的支援措置の内容等
(8)学校の財務	事業報告書、収支計算書
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ・派遣状況
(11)その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校)

公表時期: 令和7年6月中旬

授業科目等の概要

(文化教養分野 専門課程 環境デザイン学科 インテリアデザイン・コーディネーション専攻) 令和7年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			基礎製図	建築図面の描き方やルールを学び、各種図面を理解しながら作図出来る基礎的能力を身につける。	1 前	60	2		○		○		○		
2	○			住宅設計演習	住宅設計に係る基礎的な知識、技術、工法を踏まえ演習課題を通して心地よい住空間をデザインする力を養う。	2 前	60	2		○		○		○		
3	○			CAD演習Ⅰ	二次元CADによる作図の方法を学び、コンピュータを利用した設計・製図技能を習得する。CADによる建築設計製図のスキルと基礎理論の習得を目的とし、身近な空間を題材としてスケール感を把握し、的確に図面表現が出来る能力を養う。	1 前	30	1		○		○		○		
4	○			CAD演習Ⅱ	建築空間の検討や建築物の形態、室内環境、景観などをシミュレーションし、素早く、きれいに、分かり易く、設計内容を提示する能力を養う。設計に必要な表現(CAD製図、CGプレゼン)を実践的な課題と関連付けながら学び知識を深める。	2 前	60	2		○		○			○	○
5	○			インテリア計画Ⅰ	豊かな建築空間を合理的に計画し、設計できる能力を養う。条件(立地、予算、法規、機能)を整理検討し、具体的な形状や空間としてまとめる為の基本的な考え方を学ぶ。	1 前	60	2	△	○		○			○	
6	○			インテリア計画Ⅱ	住宅空間に焦点を当て、その実例を通してディテール、建築手法、計画における幅広い知識を習得する。住宅に係る要素を学び、それぞれの関係性の比重によって住宅の形態が多様であることを理解する	2 前	60	2		○		○			○	
7	○			住まいと環境	安全・衛生的かつ快適な環境を実現するための基礎的な事項を学び、建築をとりまく自然環境の特性、熱移動の基本的プロセス、熱の平衡、人間の感覚と快適環境条件を理解する。	1 前	30	1	○			○			○	
8	○			設備計画	建築の要素技術である建築設備の位置づけおよび概論的な内容を講義する。給排水衛生設備計画を進める上で必要となる基礎知識を習得する。	2 前	60	2	○			○		○		
9	○			基礎力学	構造力学の基本事項として、建築構造物の種類、力のつり合い、構造物のモデル化と作用する外力、構造物に生じる応力と変形の関係を理解する。	1 後	30	1	△	○		○		○		
10	○			建築一般	建築物の構造システムや建築形態とそれに相応しい構造材料・構造方式、および各種構造における構法を学習する。	2 前	30	1	○			○		○		
11	○			インテリア構法	インテリアの構造・構法と仕上げに関する知識を解説。建築の技術用語、基礎的な構造形式を習得する。素材については事例分析をしながら実際のサンプルに触れて特性を学ぶ。	1 後	60	2	△	○		○			○	

12	○		インテリアエレメント	建築内部空間の「しつらえ」に関する部分について日常生活における具体例、実物を見ながら授業展開を行う。内装材・ファブリック・家具・照明のインテリアエレメントに対する知識を学び、ショールームで実際に確認する。	1 前	60	2	△	○		○			○	○
13	○		インテリア施工	建築の設計から施工に至る建築生産の全工程における建築生産体制、各種の課題、施工技術について実例に基づき学習する。	1 後	30	1	○			○		○		
14	○		インテリア法規	建築基準法及び建築基準法施工令を基本として、建築物自体の主要な技術基準、主要な建築制限、制度規定について学び、設計に際しての実務に応用すべく能力を養う。	2 前	30	1	○			○		○		
15	○		造形演習Ⅰ	作品製作を通じて建築設計に必要なヒューマンスケール、三次元形態の把握方法を理解する。建築物を立体的に表現する能力を身につける。	1 前	60	2		○		○			○	
16	○		造形演習Ⅱ	模型制作を通して各工法の基本となる構造や名称を学習し、現場施工の手順に沿って組み立てることにより、施工の流れの概略を理解する。	2 前	60	2		○		○			○	
17	○		パースペクティブ基礎演習	設計意図を的確にクライアントに伝え、かつ自身の空間イメージの把握として、パース技法を習得する。空間のスケールと形態、開口部の位置や納まりを自己確認する能力を養う。	1 前	60	2		○		○		○		
18	○		ユニバーサルデザイン論	ハートビル法を理解し、ユニバーサルデザインを考慮した各部寸法、面積、配慮事項を設計演習を通して学ぶ。高齢者や障害者の行動特性を知り、居住環境における配慮点を考慮した設計が出来る能力を養う。	1 後	30	1	○			○		○		
19	○		色彩計画	各種表色系や、色の対比・感情効果、色彩調節の手法を実例を見ながら学び、色彩理論や目的に基づく配色計画を様々なデザインに応用することを学ぶ。カラーカードを用いた演習により、実践的な色彩計画をたてられる能力を身につける。	1 前	30	1	△	○		○		○		
20	○		インテリア概論	インテリアデザイン、コーディネーションボード等の作成を中心にものの創りの楽しさを学ぶ。インテリアデザイナー、コーディネーターとして必要な知識、技術を身に付け、実践する能力を養う。	1 前	30	1	○			○			○	
21	○		3Dデザイン演習Ⅰ	効果的なプレゼンテーションに不可欠な製図技法、表現技法の一つとして、Vectorworks やRender WorksなどのCADソフトの習得を目指す。家具、室内3D空間、プレゼンテーションの作成まで、CAD/CGテクニックを習得。	1 後	30	1		○		○			○	
22	○		住空間計画	住宅の設計を中心に幅広く建築に触れ、計画する意味や楽しさを見出し、現地調査から設計までを体験する。建築設計の流れを把握し、インテリア設計に活かす事が目標。	1 後	30	1		○		○			○	○
23	○		インテリアデザイン基礎演習	著名なインテリアデザイナーについて調べ、その分析を通じて業界の仕事に触れる。照明器具のシェード製作を通して機能とデザインの基礎を学び、言葉を使わずに意図を伝えるというデザインの役割を体験する。	1 前	60	2		○		○			○	
24	○		3Dデザイン演習Ⅱ	家具、室内3D空間の作成、プレゼンテーションの作成まで、CAD/CGテクニックを習得。Vectorworks, Twinmotionの機能を使いトータルのプレゼンテーションを目指す。	2 前	60	2		○		○			○	
25	○		プレゼンテーションⅠ	インテリア空間を表現するための手段としてのプレゼンテーションについて、知識と技術を学び、イメージや考えを相手に的確に伝える能力を養う。	1 後	60	2		○		○			○	

26	○		プレゼンテーションⅡ	インテリアの基本計画・設計を造形的表現、技術的表現を用いて的確に伝達するビジュアルプレゼンテーション技法を学ぶ。建築、インテリア空間をより一層明確に表現・伝達する技術を習得する。	2 後	60	2		○	○				○		
27	○		商業施設デザイン演習Ⅰ	店舗における商環境の理解と効果的な空間デザイン計画に必要な関連法規・各部詳細・エレメントの知識を習得し、実践的な空間デザイン計画に応用する。実務としての必要図面を一式作成する。	1 後	30	1		○	○				○	○	
28		○	インテリア設計演習	リゾートホテルのスイートルームやアパレルショップ等、各種設計条件(計画目的、周辺状況、所要スペース等)を満たす平面図兼家具配置図、透視図を描き、計画力、表現力を養う。	1 後	30	1		○	○				○		
29		○	インテリアコーディネーション演習	コーディネーターが行う基本計画案や実施計画案、各種エレメントなどのプレゼンテーションボードの作成技法を習得する。					○	○				○		
30		○	パースペクティブ応用演習	室内のプランを考え、パース表現の演習を行う。簡易グリッドを用いてクイックパースを学び、実務に必要なスキルを身に付ける。素材表現と添景表現を学習し表現の幅を広げる。	2 前	60	2		○	○				○		
31		○	商業施設デザイン演習Ⅱ	カフェレストランのデザインをモデルとして設計工程、調査・資料収集、構想、設計、プレゼンテーションまでを順を追って学習する。商業施設計画に必要な設計図書、関連法規を理解する。					○	○				○		
32		○	インテリアデザイン応用演習	既存シティホテルの改修課題。実際の物件を対象に現地視察を行い周辺状況の確認から課題条件を読み解き、各自で課題対象範囲に対してテナントの設定とインテリアの提案を行う。	2 前	60	2		○	○			○		○	
33		○	インテリアコーディネーター資格試験講座	インテリア(内装、家具、ファブリックス、照明器具、住宅設備等)に関する商品知識を身につけ、インテリアコーディネーター資格試験合格を目指す。				○		○				○		
34	○		DTP基礎演習	コンピューターの基本操作と、デザイン業界で世界標準のグラフィック描画ソフトIllustrator、Photoshopソフトの操作スキル、デザインテクニックを学び、検定試験の合格を目指す。	1 前	60	2		○	○				○		
35	○		DTP応用演習	プレゼンテーションにおけるDTP作業、テーマ・コンセプト内容・情報や思いが人に伝わる作品説明になるように、レイアウト、画像加工、色彩学を応用し、作品を的確にわかりやすく伝えるためのデジタルデザインを学ぶ。	2 後	30	1		○	○				○		
36	○		インテリアディテール	『良いデザインは良いディテールの積み重ねで出来ている』ディテールの重要性を実物や素材に触れる機会を通して体験し学ぶ。インテリアディテールの基礎知識、デザイン、プレゼンテーション、素材知識、納まりを身につける	1 後	30	1		○	○				○		
37	○		インテリア装備	各部の構法・材料やエレメント(家具、照明器具、壁紙、建具、カーテン等)、防災安全・サイン計画について演習課題を通して学ぶ。	2 前	30	1		○	○				○		
38	○		インテリア模型	インテリアデザインのプレゼンテーションに、より効果的な手段としての模型制作技術を習得する。インテリア素材や家具に関する観察力を磨き、コンセプトを端的に伝えられる模型構成を目標とする。	1 後	30	1		○	○				○		
39	○		進級制作	素材を活かしたインテリア空間の提案と、クライアントの要望に基づいたテーマ設定のもと、設計計画からプレゼンテーション(テーマ・コンセプト・ダイアグラム・各種図面・イメージパース(立体表現)・インテリアエレメントを含むDTP表現)まで行い、1年間の総まとめの作	1 後	180	6		○	○			○	△		

40	○		卒業制作	独自のテーマ設定のもと、設計計画からプレゼンテーションまで、コスト管理も含めた実践的な提案に取り組む。2年間の集大成となる作品を制作。	2 後	450	15		○	○	○	△	
41	○		英語	芸術分野・デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な知識を習得する。英会話を通して、コミュニケーション能力向上を目指す。	1 前	30	1	○		○		○	
42	○		前期課題制作	日常の講義や演習を通して学んだ発想、技法を活かし、前期のまとめとして課題制作を行い各種コンテストへ出品する。必要な資料を収集するリサーチ能力や、多様な視点から発想を広げて具体的な表現に展開する力を身に付ける。	1 前 2 前	各 30	各 1		○	○		○	
43	○		後期課題制作	日常の講義や演習を通して学んだ発想、技法を活かし、後期のまとめとして課題制作を行う。進級制作に繋がる資料収集、準備、計画に役立てる。	1 後	30	1		○	○		○	
44	○		業界研究	キャリアプラン(進路設計)を計画・実行する力を育成する。自分の目指す業界、企業の具体的な調査・分析方法を習得し、エントリーシート・履歴書・ポートフォリオの作成を行い活用する能力を養う。	2 後	60	2		○	○		○	
合計				39科目	80単位 (2,400単位時間)								

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
卒業要件：	各学年の教科目を履修・修得し、卒業制作の審査に合格した者は、第2学年の課程の修了が認められ、卒業が認定される。卒業時必要履修授業時数2,400単位時間			1学年の学期区分	2期
履修方法：	必修科目については時間割に準じ、選択科目についてはガイダンス時に配布される資料やシラバスを確認し、担任へ申告後履修する			1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。